

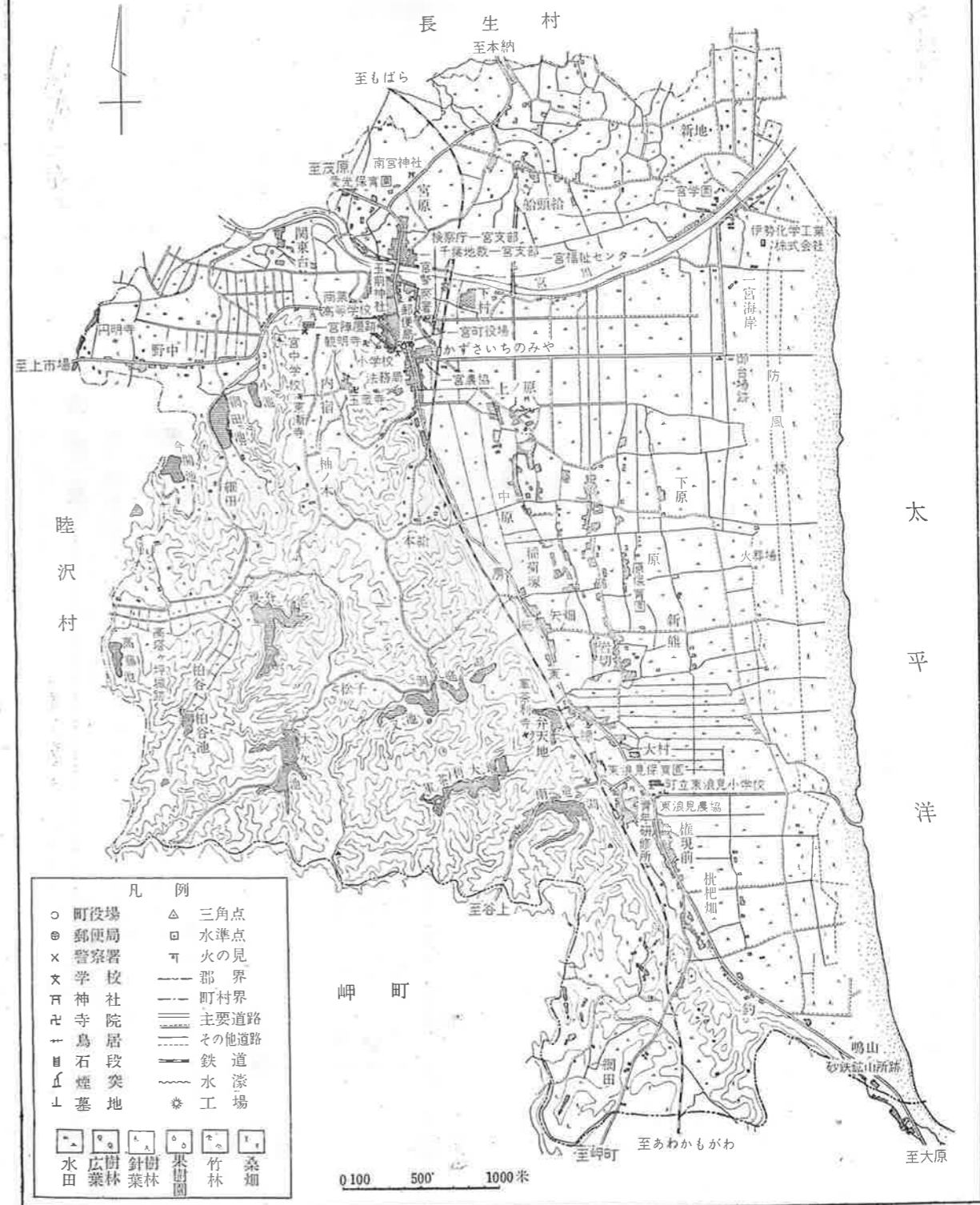
一宮いま昔

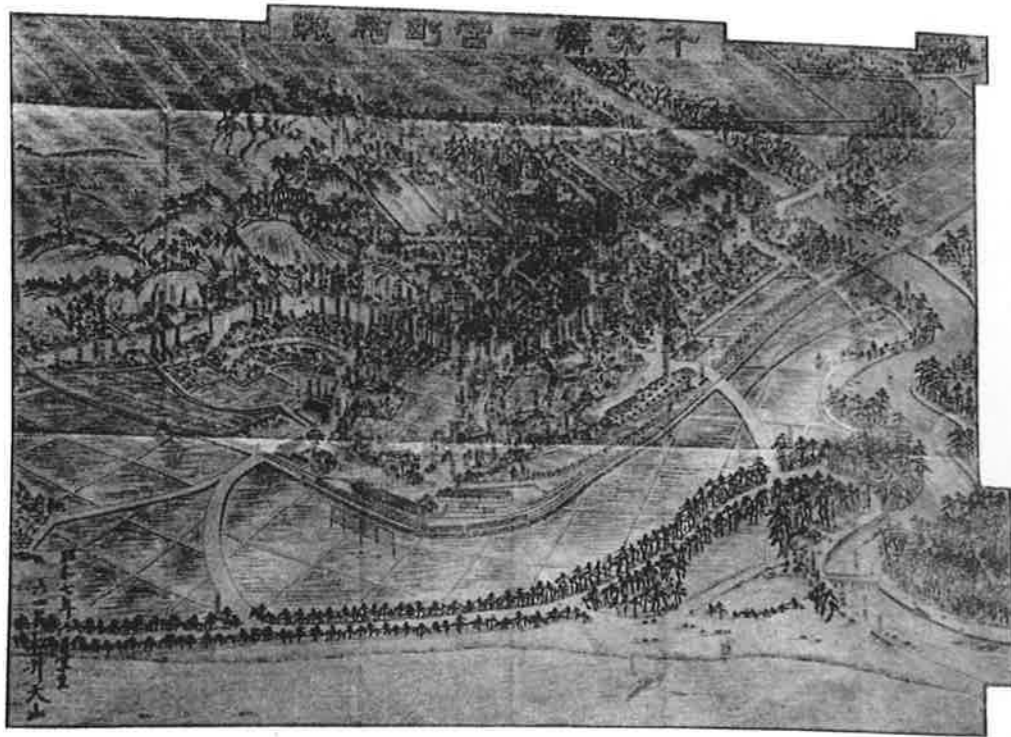
一宮町史写真集



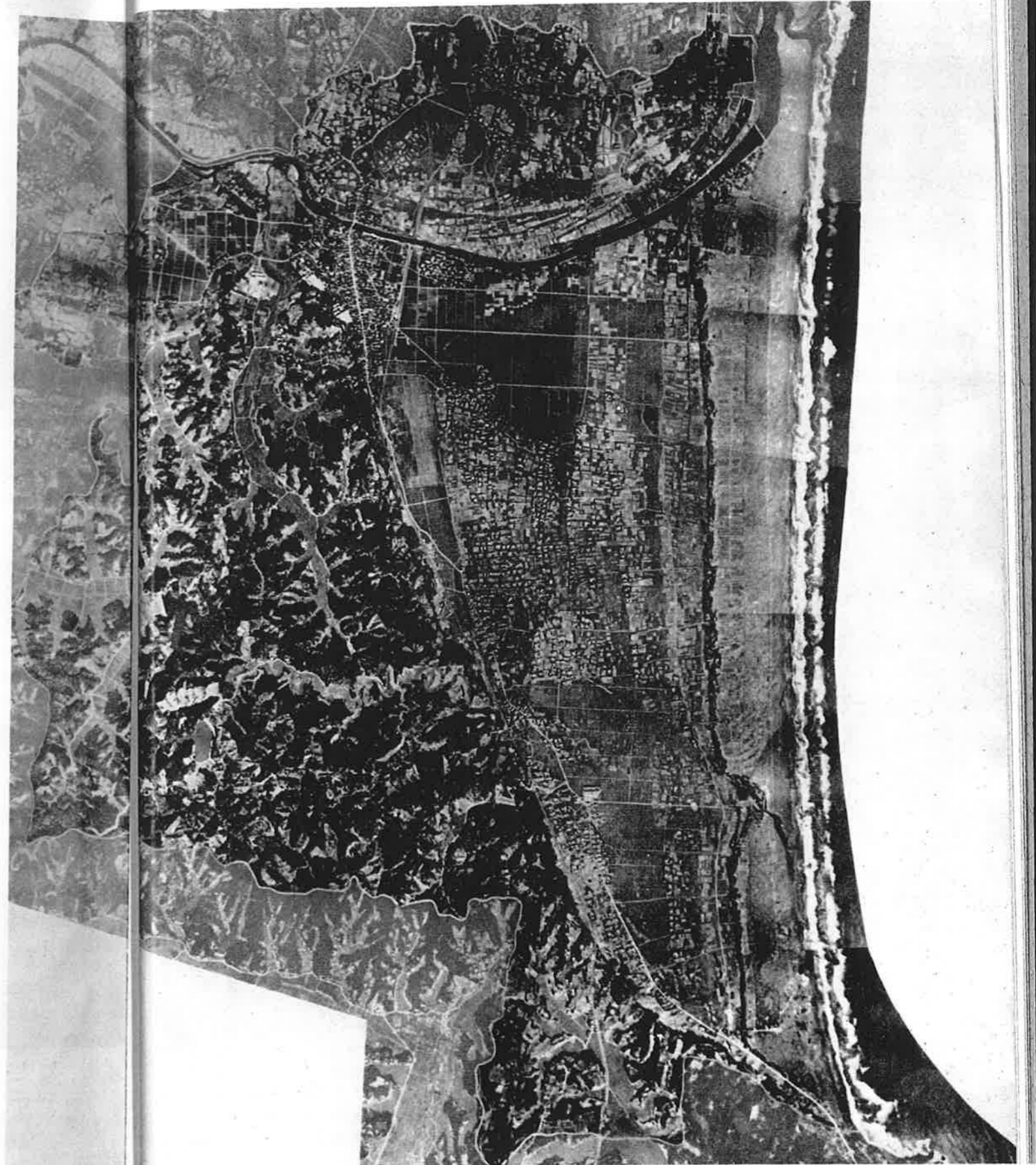
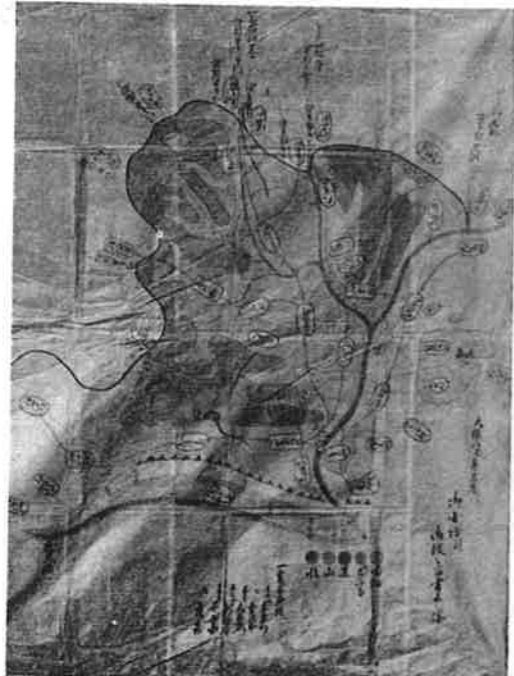
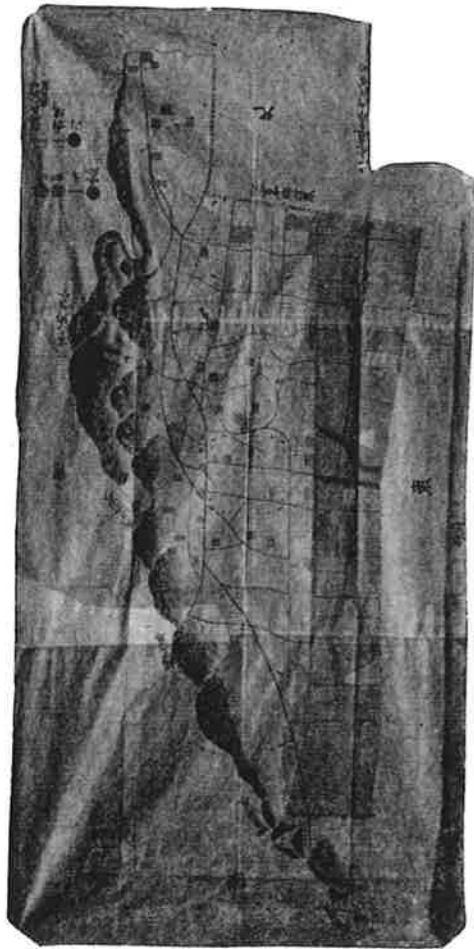
その昔、平安朝の末期ごろから上総文化の中心地として、この上総一宮は東金・木更津とともに上総の三ヶ津として知られ、このため神社、仏閣などゆいしよのあるものが多く、文化財にもすぐれたものが残されている。また太平洋の黒潮を一望にみわたせるこの町は海の幸にもめぐまれ、商業の町として知られている。

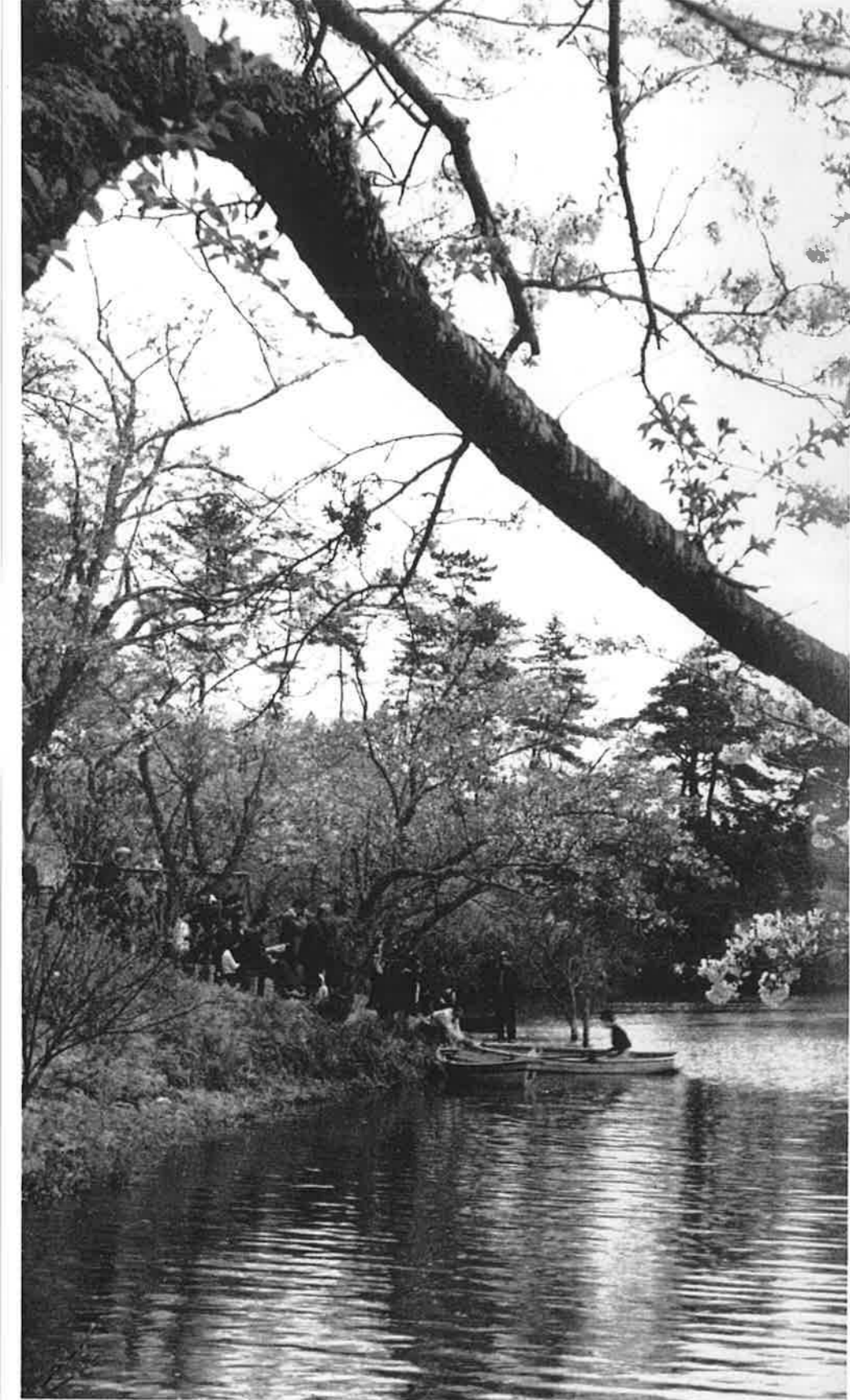
一宮町全図





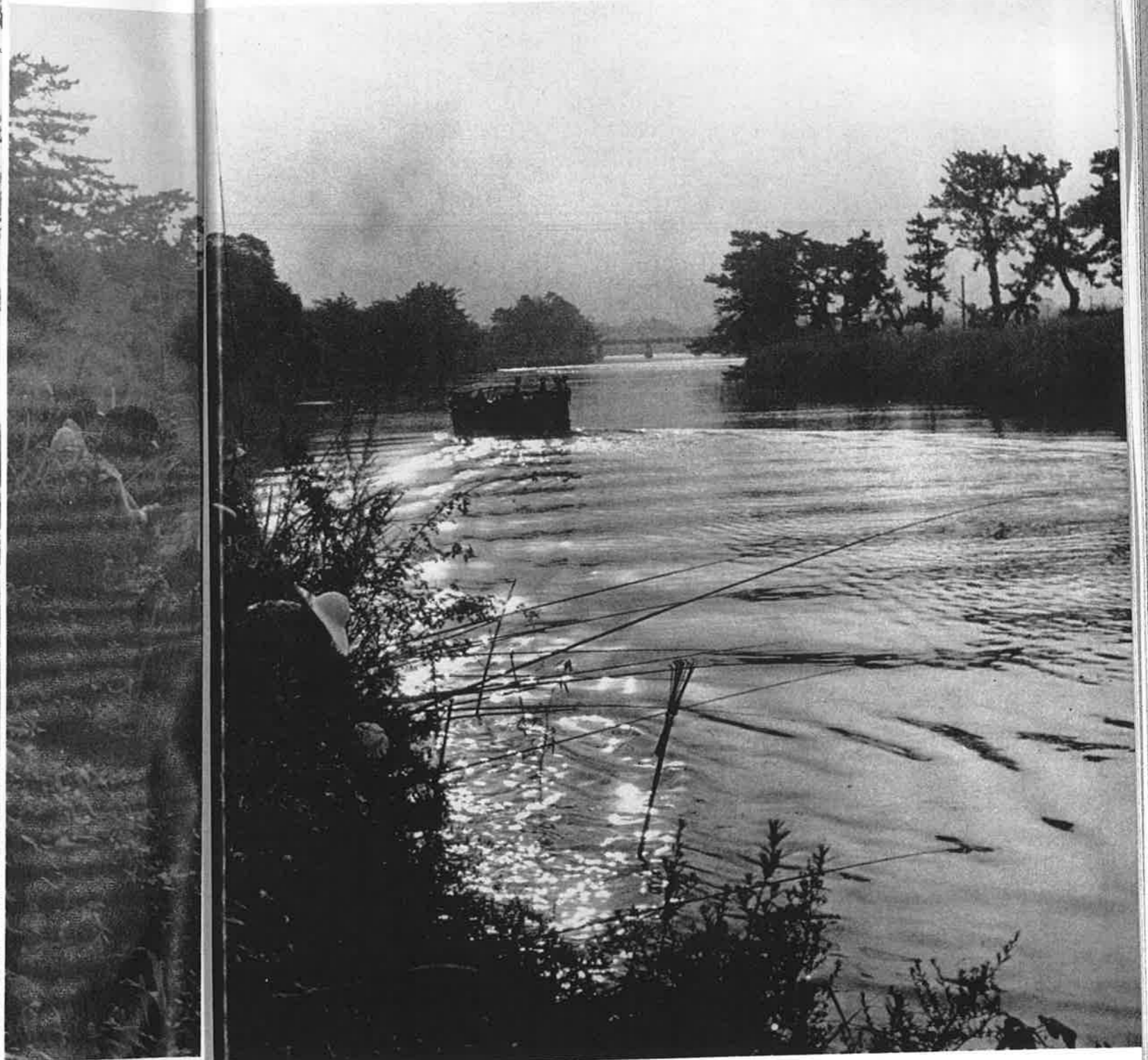
- ①現在の一宮を空からみたところ。 九十九里浜の海岸線があざやかに弧をえがいている右下の突出部が太東岬。上方に白くダ行しているのが一の宮川。山を背に、海に向って天然の地理をえた町の状況がよくわかる
- ②昭和7年につくられた一宮町の鳥瞰図
- ③天保8年の一宮本郷村のお国絵図
- ④未高入のとき代官所へ提出された一宮本郷村絵図



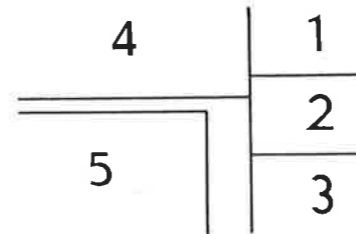
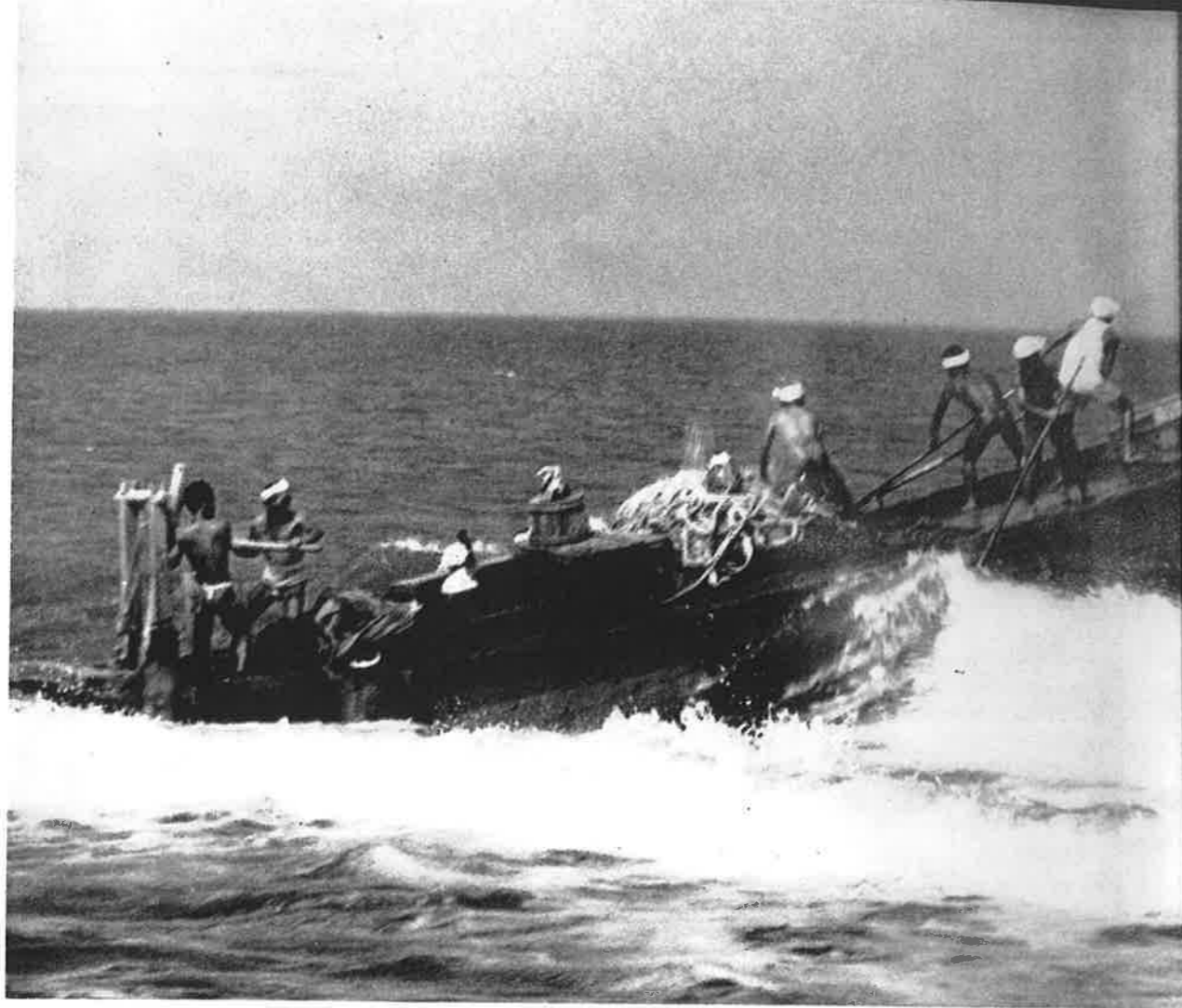


町の北部を流れるこの一宮川は、川釣りと投網の好適地として知られ、特に夏、秋は舟遊びが楽しめ、また、素朴なふん囲気で味わう川魚の味覚は観光客の人気を集めている

北に川遊びを楽しみ南に湖の桜を楽しむ。この洞庭湖は町の南、字洞庭にある。当時、加納藩主が桜の木数千本をここに植えたのに初まるといわれ、満開の時期の景観はすばらしい



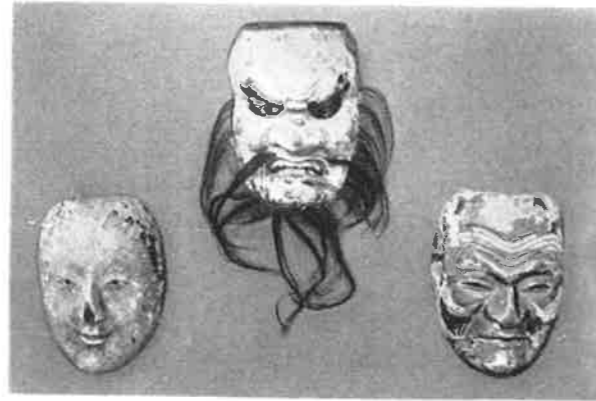
右 一宮川に釣りを楽しむひとびと。遠く一宮橋が見え遊覧船ものどかに走っている
左 満開時の洞庭湖の桜。ボート遊びに興じている若者の姿がいっぱい



なんといっても地曳きは一宮の夏を代表する風物の一つといえよう。歌にもうたわれているように男性的なたくましさは、見ているひとびともも圧倒せずにはおかない。そのダイナミックさは、太平洋の黒潮をバックにした一篇の風物詩ともいえよう。

- ①地曳き船をオッベス女たち。これは彼女たちの仕事なのだ。
- ②地曳き網をひく彼の手は大魚のよごびがあふれ、引く腕にも力があふれる
- ③大魚だ。銀鱗をはねておどる魚の群
- ④荒波をけたてて九十九里沖の漁場へ向う漁師たち
- ⑤白浜の砂は海水浴にも適している

重要文化財

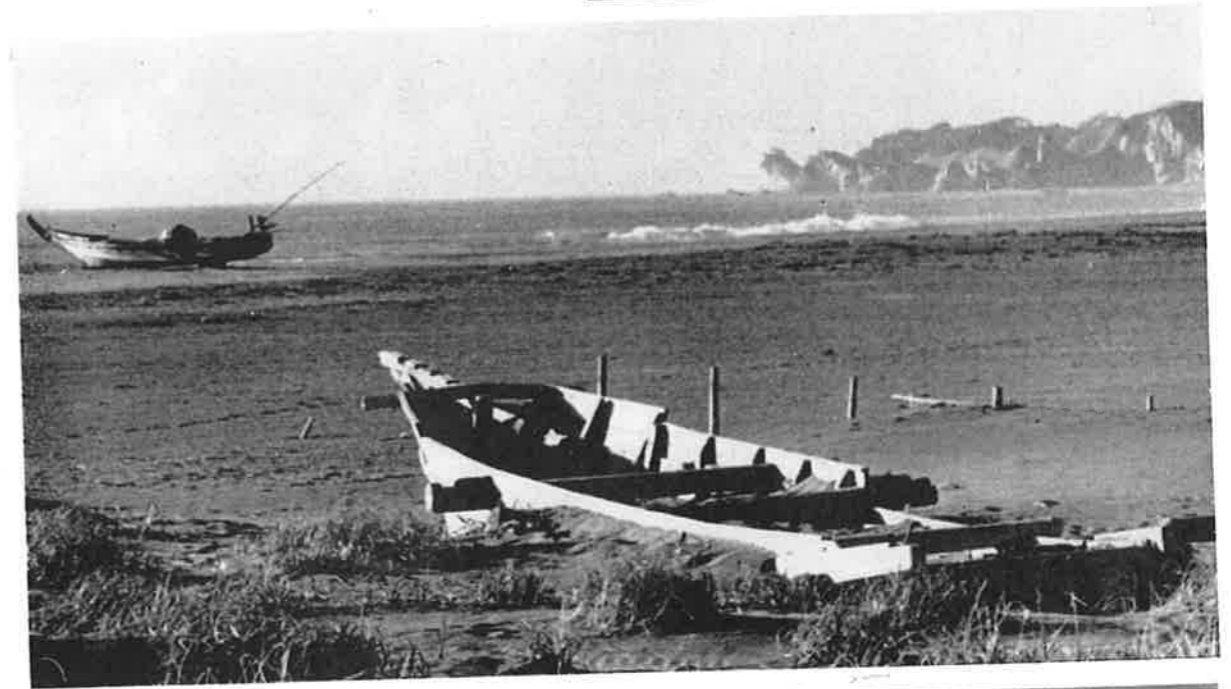


3	2	1
5	4	
		6

- 古代から文化の中心地だっただけに神社、仏閣などが多く
 国や県の文化財に指定されたものも数多くある。
- ①蓬萊鏡は吉野朝時代の作、②松喰鶴鏡は藤原時代の作
 - ③梅樹双雀鏡は鎌倉時代の作でデザインに時代の特徴が
 あられた国指定の重要文化財である
 - ④玉前神社に伝わる古式ゆかしい「上総神楽」の面。五穀
 豊を祝って神前で舞うのに使われたもの。県指定の
 無形文化財となる
 - ⑤軍荼利明王像。大同年間僧行基が樟の木に刻み安置した
 と伝えられ、丈は約2メートル素朴で雄渾な作風は時代
 をあらわしている(県指定文化財)
 - ⑥軍荼利山植物群落地。数百年を経た老椎木の木に南方系
 ・北方系の植物の限界線が並行し植物の分布上めずらしい
 群落をなしている主なものとしてハイハマボックス、ア
 オカゴノキ、マサカキ、リンボクなどがある



*海水浴・岬・砂丘

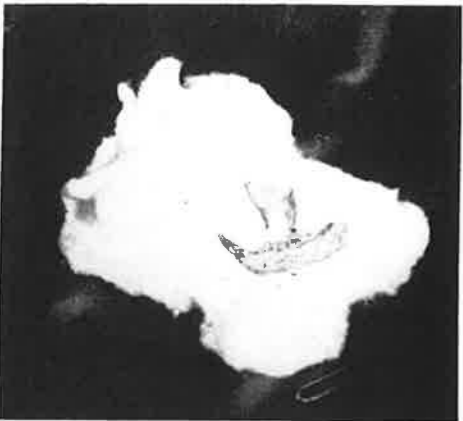
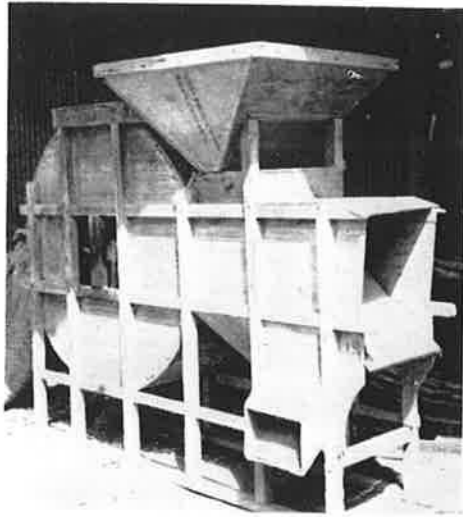


黒潮の香り高い太平洋の荒波もさることながら、この一宮南端太東岬から、遠く銚子犬吠岬まで弓のように弧をえがいて走る海岸は白い砂丘と松のみどりでも有名などころである。荒磯松の美しさと、砂丘の雄大な景色は、海水浴客、避暑客たちをよるこぼすに十分である。

- ①夕立雲がたちこめる九十九里浜の砂丘地帯。
- ②九十九里浜の南端太東岬にうちよせる白波
- ③一宮海岸は地曳きとともに海水浴場としても古くから知られ、毎年東京方面からの客でにぎわっている

江戸時代

その他



- | | | |
|---|---|--|
| 4 | 1 | ①新発村と船頭給村の川欠論裁許の文書(享保13年) |
| 5 | 2 | ②③東浪見の百姓にあてた文書。虎良見とみえる |
| 6 | 3 | ④天保年間の唐箕。現在も修理して使われている
⑤山猫の下顎骨(数千年前のもの)
⑥古代の石器、化石類 |



- ①百姓の畑地の持ち域をあらわす図(弘化4年ごろ)
- ②各部落の名主による地曳き網組合の割印状(延宝3年)
- ③長柄郡船頭給村の宗門人別書上帳(嘉永7年)
- ④東村川城太郎兵衛の調査による一宮本郷村古家簿
- ⑤天正10年里見家から玉前神社への土地の寄進状

天正のむかしから、徳川氏に帰属していたためか、江戸時代に入ってからますます文化はひらけ、江戸との往来もはげしく、有名人の遊歩もあとをたたなかった。



2	1
3	
4	5



天正	慶長	正保	貞享	文政
10年 里見義頼、玉前神社へ高地を寄附する	17年 東漸寺(不動明王)が僧惠玲によりひらかれた	諸家系図をしらべ、126軒の名簿をつくる	2年 観明寺では常楽院より二朱印状を拝受した	4年 五世加納久傳、1300石で隠封 6年 春木南洞、一宮餅や治兵衛方に治り、総常日記を書く 9年 久月、一宮陣屋を新築
13年 東浪見村と中原村の境界をきめた	成田・東金街道をひらく			

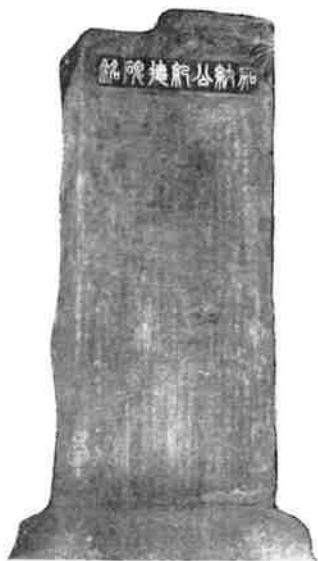
天保	弘化	嘉永	文久	慶応
3年 大原幽学来遊する 13年 加納久傳隠居し、久役にゆずる	4年 江戸大相撲一行くる	2年 久役歿し、久直18才で家督をつぐ	1年 加納久役若年寄となる。 2年 高藤山に城跡の石碑をたてる	2年 房州に黒船来航し沿岸防備される 玉前神社氏子に神輿造営入用費を割当て



3	2	1
5	4	
9	8	7
		6



- ①建治2年正月、日蓮の筆による経本(金紙金泥法華経老部の内玉蔵寺蔵)
- ②ねはん図
- ③弘化4年、綱田村へ大相撲一行がきたときの番付表。
- ④大黒天。天台宗十一面観音の脇立に属するもののひとつ
- ⑤内山家に伝わる日用品の一部
- ⑥享保年間の石塔仏
- ⑦寛文年間の石塔仏
- ⑧東浪見竜宮台にある八大龍王の碑。その昔大漁祝いを行なった
- ⑨加納久宣公をたたえた碑。後藤新平男の銘がきざまれている

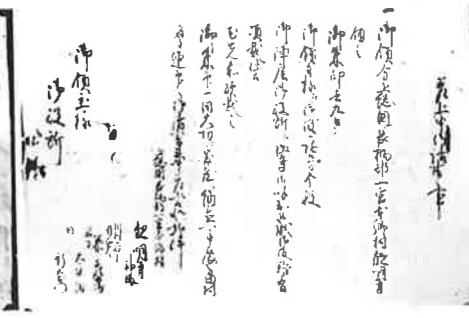


*文書と仏像

古くからの寺院が多いので古文書、仏像、碑など数多く残されている。

- ①明治初年ごろ江戸の画師が画いた観明寺
- ②観明寺の御朱印書
- ③江戸中期ごろの仏像

- ④四面松竹梅、竜虎でかざられた花器。幕末期のものといわれている
- ⑤観明寺蔵のびんづる尊者
- ⑥年代不明の仏像

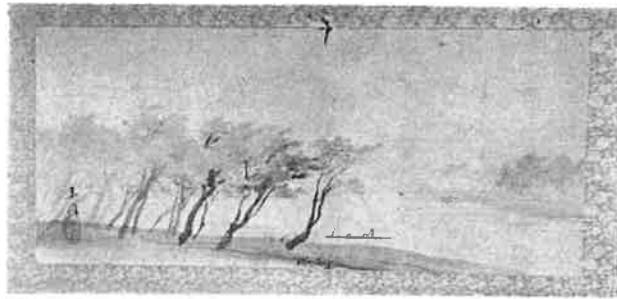


	1
3	2
4	6
5	



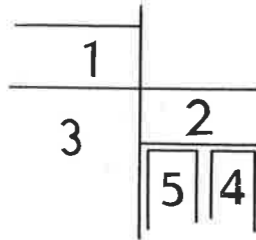
*江戸から現代まで

書画



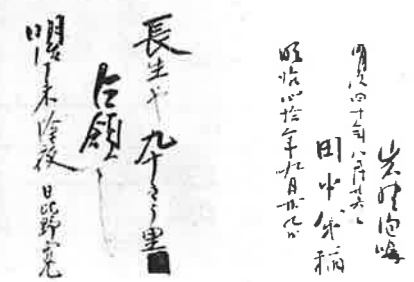
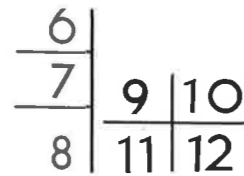
江戸時代から有名人の来遊が多く、書画にも立派な作品が残されている。

- ①前田多門画による一宮館よりみた一宮川
- ②大正6年夏、加納久宣公の書かれたもの
- ③春木南湖がスケッチした一宮本郷村絵図(船橋図書館蔵)
- ④太田錦城の書
- ⑤笹川星巖翁の漢詩
- ⑥東郷平八郎元帥が志田鉦太郎博士邸に遊ん



だとき、一宮海岸を描いたもの

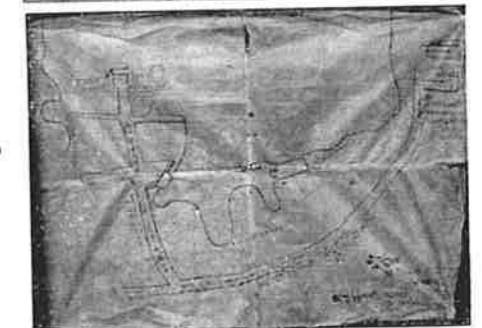
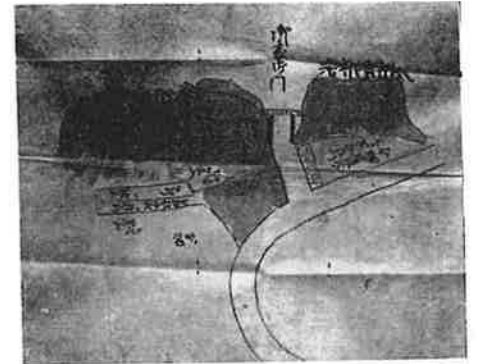
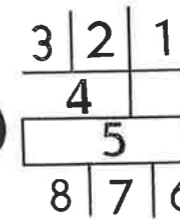
- ⑦山路の画
- ⑧名士の筆になるサイン帖。岩野泡鳴などの書もみられる
- ⑨梶田半古の画いた一宮の風景
- ⑩加納久徴公が伝説の高根南耕地狐のことをよんだうた
- ⑪玉前神社前にある社頭松をよんだ幟仁親王のうた
- ⑫蜀山人の一宮をよんだうたをびょうぶに仕立てたもの



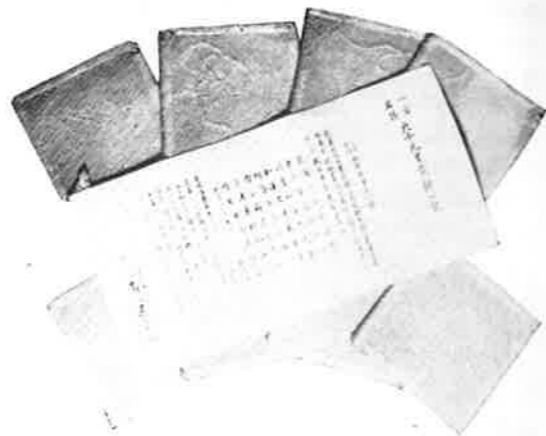
*加納藩

江戸時代はある意味で加納藩の一宮であるともいわれそれだけに藩にまつわるものも多い

- ①加納久侍公より拝受された茶釜
- ②加納久侍公より拝領の印ろう(玉前神社所蔵)
- ③加納久侍公のうたった和歌
- ④加納藩で作製した鉄砲(玉はパチンコ玉ぐらい)
- ⑤堅極流鉄砲の目録書(安政2年5月)
- ⑥加納藩の武士が着たヨロイカブト
- ⑦加納藩の陣羽織
- ⑧幕末御台場にあったといわれる藩の大砲



*商工金融



九十九里の荒波で育ったためか、進取の気性が気風として多くみられ、商工業界へ進歩した人も多かった。

①志田鉦太郎、粟津清亮両博士の書 梶田半古画伯の画入りによる九十九里煎餅。

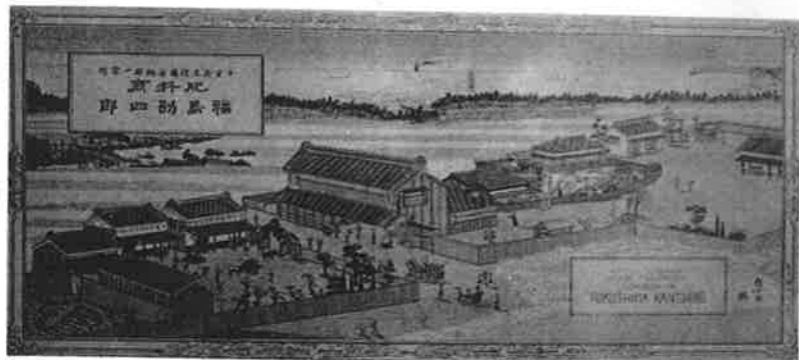
②一宮商業銀行の全景。現在もなお町役場としてつかわれている



③明治42年11月房総鉄道株式会社専務大野丈助氏の個人にあてた感謝状。会社解散当時のものである

④、⑤、⑥一宮町の往来図。肥料商その他の商人屋敷がみられ、当時の盛況ぶりがうかがわれる

⑦初めて海水浴場がひらかれた当時の画図。(いずれも船橋図書館蔵)

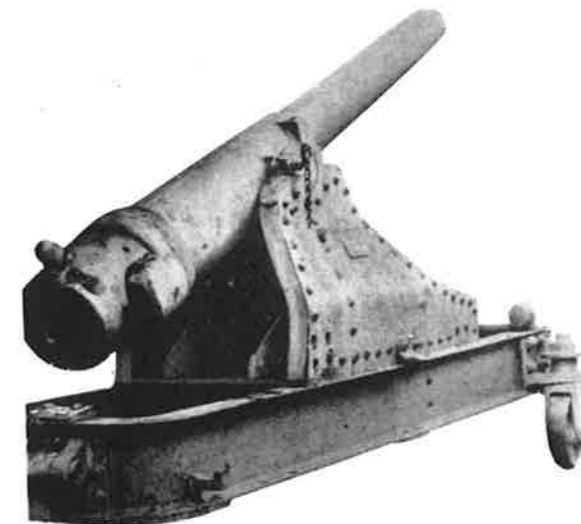


明治

*人物往来



2	1
3	5
4	6



明治に入ってから、加納公の交際のひろさからか、有名人も数多くおとづれ、又東京に近いという立地条件もあって豪商も多く出ている。

①明治42年ごろ一宮海岸で地曳きに遊ぶもと15代将軍徳川慶喜公、写真は納屋での記念撮影

②明治35年千葉県をご旅行の際立ちよられた。③はそのおり町長に送られた、お礼状である

④日清戦争黄海海戦当時の敵艦定遠の大砲

⑤明治19年11月一宮町に一週間滞在したドイツメッケル將軍の札状

⑥日露戦争に出征した兵士の軍服姿

2	4	5	6	9	10	11	12	15	17
藩政を改革ししもの陣屋に藩庁をおいた	玉前神社国幣中社に列す 7月 藩を廃し、一宮県となり加納久宣縣知事となる 11月 一宮県廃止	旧藩校廃止	6月 千葉県となり、一宮本郷村は第7大区4小区に編入 10月 東浪見村大字内に小学校をつくる 11月 一宮崇文館学会設立 12月 西小学校、網田小学校が開校			東浪見は椎木村と村連會をくむ 東浪見時習学校開設 網田小学校校舎を新築		浅野久右衛門煮干場をひらく 1月 一宮戸長役場を観明寺内におく	東浪見村は椎木、中原、和泉の三村共同戸長役場の所轄区域に編入さる

19	20	21	23	27	30	31	34	35	40	44
11月 ドイツメッケル將軍、一宮町に7日間滞在	4月 東浪見尋常小学校と改める 7月 補習科を設ける	10月 一宮本郷村と新築村を合併して一宮町となる	房総鉄道(株)設立	4月 東浪見、細田の旧二村を合わせ東浪見村とす	総武線兩國、千葉間開通	一宮商業銀行設立	5月 網田小学校と東浪見小学校合併	愛国婦人会千葉支部できる	房総鉄道解散 有限責任一宮町信用販売購買利用組合設立	一宮海水浴場できる

*風俗



人物往来もはげしく、教育熱心なこの時代には、風俗にも新らしさが目立ち、海水浴場、旅館などデラックスなものも目立っている

①当時の風俗をしのぶ代表的なスタイル。このような親しい人同志の記念撮影も一つの風俗といえよう。

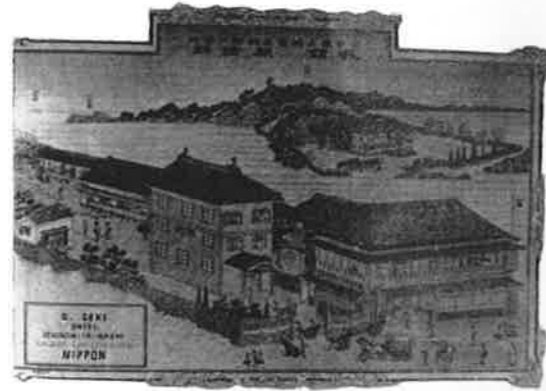
②明治初年ごろ海辺に建てられたデラックス旅館。遠く太東岬も画かれている

③明治初年ごろの鶴栖館（いずれも船橋図書館蔵）

④上総一宮海水浴場の入口付近の旅館

⑤網田部落の虫おくり

1	
3	2
5	4



*教育

教育にも非常に熱心で藩校がつくられたり、婦人会が組織されたり、当時としては活潑なうごきといわなければなるまい

①明治30年ごろの、一宮町立一宮尋常高等小学校の正門

②明治末期の東浪見村立尋常高等小学校附近の民家と対比してみるとおもしろい

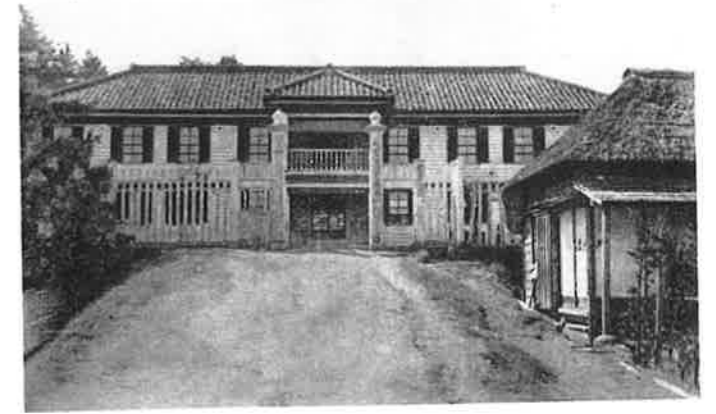
③旧一宮県崇文館、現在の一宮西小学校校舎を一株寄附願い

④明治43年2月、玉蔵寺で開られた、第1回一宮婦人会発会式。加納公夫人など町の名士夫人の顔もみられる

⑤明治27年ごろの小学校教員の免許状と辞令

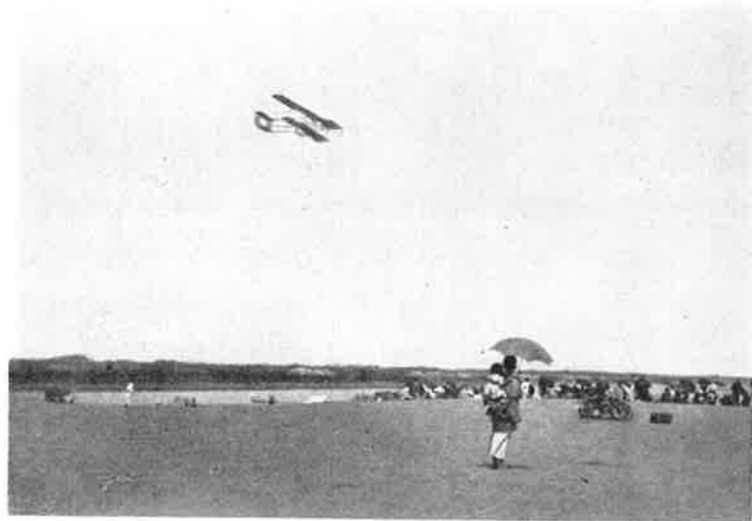
⑥明治末期の貴老会。会長は加納公夫人

⑦小学校生徒の綱引き。ハカマ姿に注意



	1
4	2
5	3
7	6





- ①大正6年9月一宮・所沢間を長距離飛行した日本陸軍の飛行機。当時としては飛行機はめずらしいものの一つで、海岸に見物人がおしかけている
- ②創立当時の町立一宮実業全景
- ③大正末期野中でおこなわれた草競馬風景
- ④大正初期の薬屋宣伝員
- ⑤大正4年一宮町に創られた私立一宮女学校の校門と校舎



大正年間にはもっぱら避暑地として発達し、また私立女学校、病院などが創立されている

②もと衆議院議員関和知氏宅に横づけされた乗用車。陸軍政務次官当時
③南宮神社社殿内に奉納されてある北沢楽天の画





- ①昭和13年日支事変当時、出征兵士を送る風景
- ②昭和18年大太平洋戦争当時の婦人会の勤労奉仕姿
- ③東浪見甚句（二上り甚句）
- ④もと総理平沼騏一郎書
- ⑤海岸より眺めた一宮陣屋あと（城山）
- ⑥一宮別邸における、もと元帥上原勇作氏
- ⑦一宮別邸にて弓のケイコをする、もと総理の斉藤実氏



明治・大正の華やかさ、進取の気がいにくらべて昭和はあまり見るべきものはない。これはひとえに、戦争という日本の歴史がもたらした結果かも知れない。

- ①昭和6年に着工された細田の溜池工事の状況。現在の近代工法からくらべると非常なちがいがあがる
- ②近代農法の一つ。空から農薬を散布する
- ③一宮橋の落成式。渡り初めの状況
- ④もと東浪見村役場あとの東浪見農協事務所
- ⑤大漁のときに着て祝うドテラ



3	9	10	12	15	18	20	21	22	24	26	28	29	31
一宮川橋を永久橋にすることに決定 6月 私立一宮実業を町立に移管	8月 一宮川口で遊宮殿下は水馬演習にご参加	10月 千葉県よりハイマボックスが天然記念物に指定される	6月 考古学者大山相氏一行により縄紋式土器など貝塚より発見する	6月 東浪見の県営砂鉄採集所の砂鉄は月産1800トンとなる	一宮役場の庁舎は老朽化したため十八銀行に移転	8月 大太平洋戦争終結	3月 婦人参政権をえ、初の総選挙	初代町長公選 新制中学校敷地として一宮実業後援金所有の5700坪をゆずりうける	一宮観光協会発足	3月 千葉県地方検察庁支部と千葉法務局支局開設	11月 東浪見村と、一宮町の合併 玉前神社の梅樹苑、重要文化財に指定される	4月 長生村船頭給一宮町に編入	一宮橋完成